

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

香川県坂出市 坂出駅北口地下駐車場

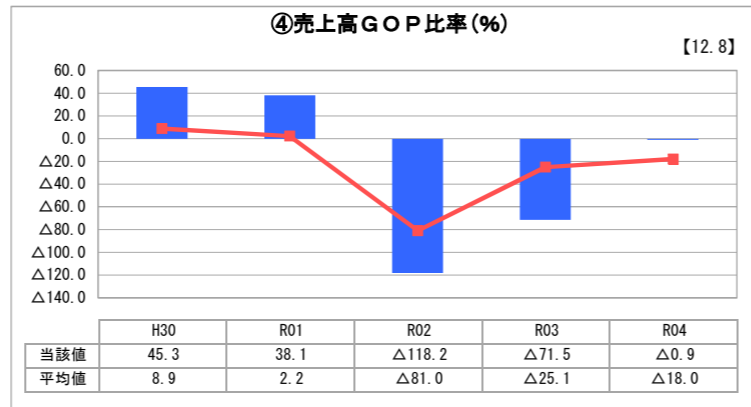
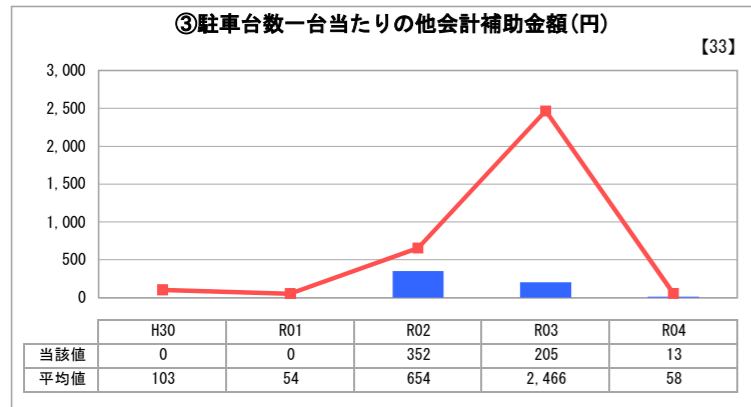
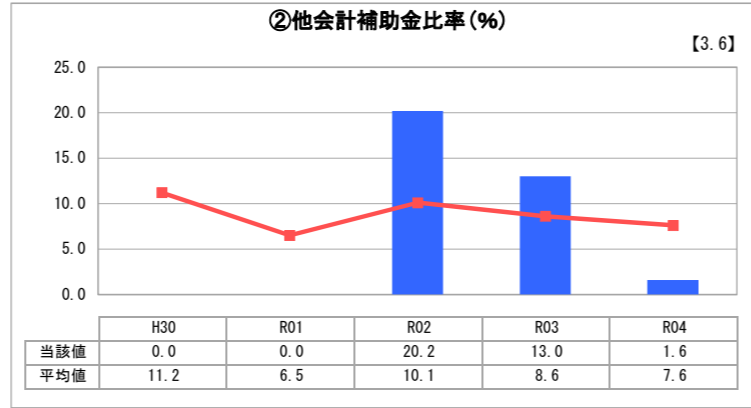
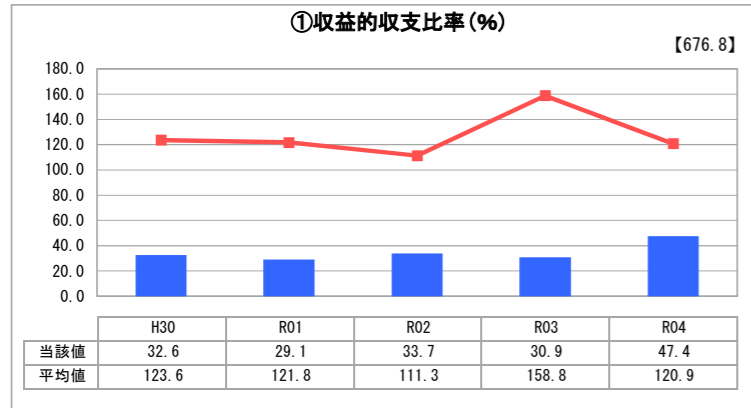
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 届出駐車場	地下式	22	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(㎡)
駅	無	5,247
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
126	200	無

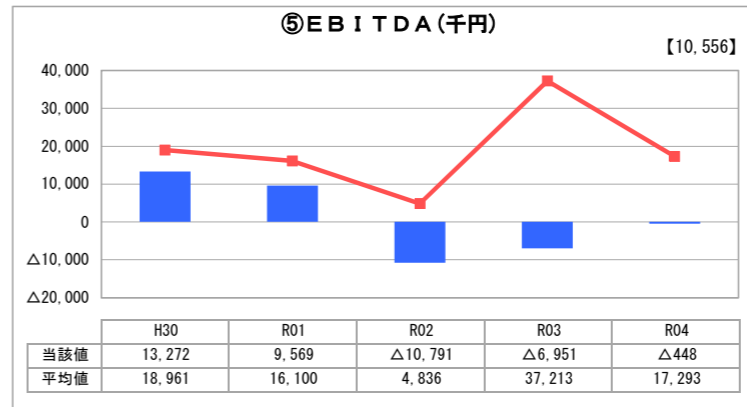
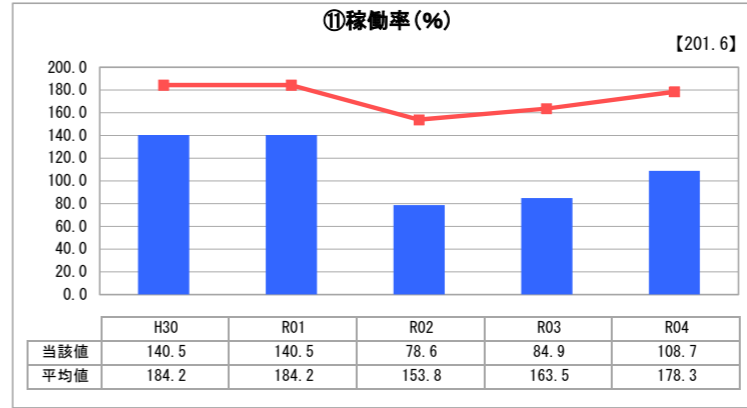
**グラフ凡例**

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

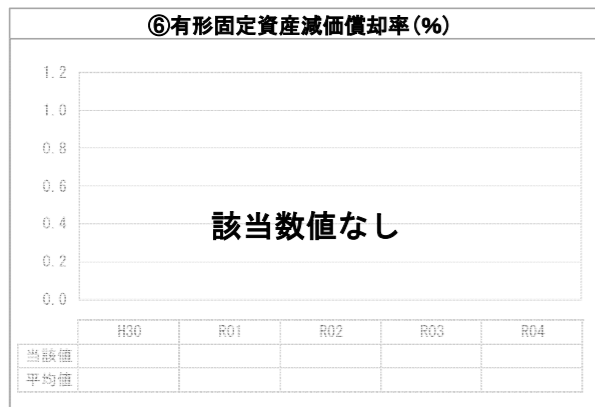
## 1. 収益等の状況



## 3. 利用の状況



## 2. 資産等の状況

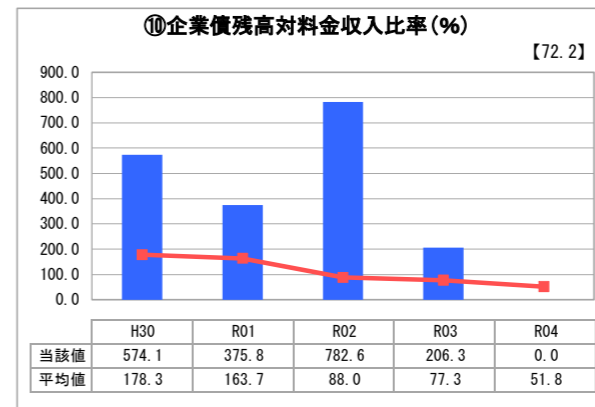
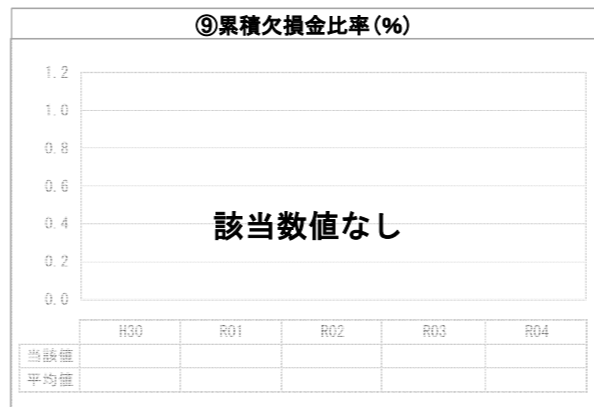


**⑭敷地の地価(千円)**

0

**⑮設備投資見込額(千円)**

990,883



## 分析欄

**1. 収益等の状況について**

①収益的収支比率の数値が100%未満のため、赤字経営となっています。これは施設の建設費に伴う地方債償還金の金額が大きく、営業収益だけでは賅えきれていないからです。地方債の償還は令和4年度で終了するため、収益的収支比率100%以上を目指し、経費削減等に努めていきます。

②他会計補助金比率と③駐車台数一台当たりの他会計補助金額の数値が令和2年度・3年度と比較して大きく改善されています。これは令和4年度が地方債償還の最終年度であり、地方債償還金額が例年より小さかったため、それに伴い一般会計からの繰入金金額も小さくなったためです。

④売上高GOP比率と⑤EBITDAについては、令和2年度・3年度と比較して回復したものの、例年よりも大きく低い数値となっています。これは新型コロナウイルス感染症拡大に対する「まん延防止等重点措置」の終了により外出規制が緩和され利用者数が回復傾向にあるものの、未だ完全には回復していないためです。

**2. 資産等の状況について**

供用開始から22年が経過し、耐用年数を超えた設備等が出てきているため、令和2年度に策定した経営戦略及び個別施設計画に基づき、施設本体の状態の検査や補強など、優先度の高い設備等から順次更新・修繕を実施いたします。

⑩企業債残高対料金収入比率については、令和4年度に地方債の償還が終了したため、0になっています。今後の設備更新の財源を含め、経営改善に努めてまいります。

**3. 利用の状況について**

⑪稼働率について、単年比較すると、令和4年度は令和3年度に比べ回復しているものの、依然として例年を大きく下回っています。これは、新型コロナウイルス感染症拡大に対する「まん延防止等重点措置」が終了し外出規制が緩和され利用者数が回復傾向にあるものの、未だ完全には回復していないものと考えています。

経年比較すると、過去を通して類似施設平均値を大きく下回る数値で推移しています。これは、当該駐車場の周辺に最大料金が半額程度の民間駐車場があることが要因と思われる。

また、最大料金となる6時間以上の利用者が令和4年度は全体の約2割を占めるなど、長時間の利用があることも要因のひとつとして考えられます。

稼働率を向上させるために、最大料金を周辺駐車場と同額まで値下げすることも考えられますが、値下げをすることでかえって長時間利用を誘発し、稼働率の向上につながるとは見えません。

稼働率の向上については、駐車料金だけでなく、利用者の動向や施設の需要も視野に入れて慎重に検討していく必要があります。

**全体総括**

地方債の償還が令和4年度で終了したものの、人件費を含む営業費用の高騰や耐用年数を超えた設備の更新・改修などによる支出の増加が見込まれるなど、今後の経営状況は厳しいものになると予想されます。経費削減等の地道な努力に加え、利用者や周辺施設の動向等、周囲を取り巻く環境を把握し、収益の増加、あるいは確保に努めていく必要があります。

当該駐車場は、駅周辺の都市機能の強化を図るとともに、渋滞の緩和及び交通事故防止を目的に設置されています。その本来の目的を見失わないよう、適切な経営に努めていきます。

また、令和2年度に策定した経営戦略の投資・財政計画をベースに、経済情勢を考慮しつつ経営を進めていきます。